

特集

今、京大生の中で一番有名な人といえば間違いなくこの人でしょう。今回は昨年のドラフト会議で指名され、京大の野球史を大きく塗り変えた田中英祐投手にお話を伺いました。
(このは)

誕生！京大初のプロ野球選手

田中英祐投手

profile

1992年兵庫県生まれ。工学部工業化学科4回生。白陵中学、白陵高校を経て、現役で京大に合格。1回生の頃に春のリーグ戦に初出場して以降、長く京大野球部のエースとして活躍を続けた。球威のある140⁺台（最速149⁺）の直球を武器としていて、昨年10月のプロ野球ドラフト会議で千葉ロッテマリーンズから2位で指名を受け、入団。京大初のプロ野球選手として注目を集めている。

——考えて補う 習慣が
京大4年間の成長に——



「投手田中」の誕生

——野球を始めたきっかけは？

小学4年生の頃に近所の友達に誘われて、地元の少年野球チームである塩市少年野球団に入りました。小学校の頃は、外野手と捕手、それに三塁手をやっていたんですけど、コントロールが悪くて投手はやらせてもらえませんでした(笑)。でも、野球を始めた時から投手への憧れはありました。

——投手に転向したのはいつですか？

中学生の頃ですね。僕の通っていた白陵中学は私立の進学校なので、小学生の頃に本格的に野球をした経験のある人が少なく、ほとんどの人は遊びでしか野球をやったことがない状態だったんですよ。先輩の中には何人か投手がいたんですけど、勉強の成績が問題になって試合に出られなくなっていたんです。そんな時に監督から「投手おらんのだけ、投

手できるか？」と聞かれて、投手をやりました。結局それからはずっと投手をやっていますね。

——中学時代はどんな投手でしたか？

中学生の頃にずっと試合で投げさせてもらって、コントロールもちょっとずつ改善されていきました。中学3年生になったあたりからは、ある程度試合でもいい投球ができるようにもなりました。その時には最速で130⁺ぐらいを出せるようになっていましたね。

——投手として成長することができたきっかけは？

白陵は中高一貫校なので、中学の野球部を引退したらそのまま高校の方の練習に参加するんですよ。それで、高校の野球部の練習に参加し始めたら、「おまえら、一生走っとけ」と言われて……。中学3年生の冬には1時間走など、基礎体

力作りで足腰がかなり鍛えられたんですが、そういうものがきっかけで球が速くなったのかもしれないですね。その期間って、ほとんどの公立の中学生は高校受験があって受験勉強をしなきゃいけないじゃないですか。僕らは中高一貫校にいて高校受験をする必要がなかったので、ずっと野球漬けで過ごせてたくさん練習ができた分、成長できたのではないかと思いますね。

——高校生の頃の経験で今につながっていることはありますか？

そうですね、私立には野球の強豪校がたくさんある中で、そこに勝つために限られた環境の下、どうやって練習しているかと日々考えて意見を出し合いながら練習していたことですね。より良い練習をするために試行錯誤してきた経験は、京大の野球部でもやっぱり生かされていますね。

(農・2 NF回れない)
(輝かしい時代はすぐ終わるんだ；編)

はみだし
すてーじ
センター試験解けないよう……
⇒ぐうわかる

京大、そして野球部へ

——京大に進学したきっかけは？

高校が進学校でクラスの皆が東大や京大を目指していたこともあり、純粋に学力重視で京大を選びました。

工学部を選んだことにあまり深い意味はなかったんですが、僕の父親が京大の工学部の今でいう物理工学科の出身で、理系の物事を身近に感じていたのもあって工学部を選びました。ただ、父親と全く同じところに行くのは嫌だったので、物理工学科ではなく工業化学科を選びました。

——入学当初から野球部に入ることは決めていたんですか？

最初は京大で野球をするかどうか結構迷ってましたね。高校の野球部の監督からは野球を続けた方がいいと言われていたんですが、大学でも絶対に野球を続けようという気持ちは、入学当初にはありませんでした。でもどうせ野球をや

るなら本気でやりたかったので、入るなら野球サークルではなく野球部の方にしようと思っていました。

——入学当初はどうしていましたか？

テニスサークルとかたくさんの新歓を遊び回ってましたね。サークルを選ぶ上で、もちろん興味があるものかどうか大事だったんですけど、下宿生ということもあって、夕飯をおごってもらえるサークルの新歓をとにかく回ってました(笑)。

新歓に行った中でも京大のアメフトはやっぱり強いということもあって、とりわけ興味はありましたね。高校の時の先輩もいて、その人からも勧誘されたので、ちょっと迷いました(笑)。

——初めて野球部に行った時のことを教えてください

野球部の様子を見に行こうと思ってグ

ラウンドに行ったら、そこが実は野球サークルだったんですよ。それでそのサークルの人に「君はここにいるべきじゃないから野球部連れて行ったるわ」と言われて、硬式野球部の方に紹介されました。

硬式野球部の人は僕が見に来る前から僕のことを知っていたみたいで、最初に行った時に「野球部に入部してくれるの？」と聞かれたんです。でも僕は「もうちょっと考えときます」と答えて、その後も別の新歓を回っていましたね。

——最終的に野球部への入部に至った理由は？

いつの間にか大学でも本気で野球をやりたいと思っていたんです。それにチームメイトが本当に良く、今までにないような良いチームができるような気がして、自分もその一員になりたいと思って、5月になって野球部に入りました。

はみだし
すてーじ
本質は「愛」だと思ってましたが、どうやらやっぱり違う気が。
⇒愛なんて期待するから悪いんです

(文・4 いさおちゃん)
(そんなものは見せかけに過ぎないじゃ……；編)



京大での生活

—下宿生活はどうでしたか？

特に朝がきついです。下宿生活は人間をダメにしてしまいますね(笑)。自炊をすることもありますが、時間的な制約もあるので、生協の食堂を利用することも多いです。とり天とか好きですね。

—勉強と部活の両立はどうでしたか？

しんどかったですね。特に3回生の頃は尋常じゃない量のレポートが出たのでしんどかったんですけど、リーグ戦とかぶらなかつたので何とか乗り切ることができました。でも2回生の頃は専門のコマ数が少なかったんで、空き時間に焼き鳥屋のバイトを入れたり教習所に行ったり、吉田南図書館の視聴室で『ハリーポッター』などの映画を見たりして、ゆるりと過ごしていました。

—試験期間中は？

野球部は試験期間中に1週間だけ休み

があり、その期間は睡眠時間を2時間ぐらいにして勉強してました。僕は家であまり勉強できないので、マクドや附属図書館の学習室24で勉強してましたね。専門が本格的に始まってからは内容が難しいので本当にしんどかったです……。

—今の研究室を選んだ理由は？

特に深い理由はありません(笑)。でも野球の練習時間は確保したかったので、拘束時間の短い研究室を探して探してました。そしたら高校の先輩に今の研究室を勧められて、そこに決めちゃいました。

—研究はどうですか？

研究内容はやっぱり難しいですね。でも自分の言葉で喋ることが好きなのもあって、発表はとても楽しいです。

僕は理論系を専攻しているので、実験にそこまで時間を取られず、好きな時間に研究を進めています。



吉田南図書館の視聴室



附属図書館の学習室24



ドラフト会議

—ドラフト会議で指名される前は？

ドラフト会議が始まる前はグラウンドでいつものように練習していました。ドラフト会議が始まる時間になって、野球部の4回生皆でテレビを見ていたんですけど、「これで自分の運命が決まるんだ」と思って、緊張しましたね。

—指名された瞬間は？

1巡目から緊張しっぱなしで、指名されたのはもう疲れたと思っていた時でした。「田中英……」の時点で周りがどっと沸いたんですけど、僕は一瞬指名されたとはわからなかったんです。でもすぐに指名されたとわかって、「ああよかった、俺指名されたんだ……」とすぐほっとしました。たくさんカメラが来ているのに、指名されなかったらどうすればいいんだろうかと思っていたので(笑)。

—ドラフト会議の後は？

記者会見の後、野球部の仲間の家で深

夜2時くらいまでお祝いしてもらいました。テレビで僕の映像が出るたびに毎回乾杯が始まるという訳がわからないことをやっていたね(笑)。

でも翌日は大変でした。朝4時に起きて大阪に行って生放送に出演した後、京大に戻ってきて午後から取材を受けて、途中で球団から指名あいさつを受けて、それからまた取材を受けるといった感じで……。研究室もこの日は休みもしてもらいました。

—反響は感じますか？

やっぱり感じますね。ドラフト会議当日も報道陣の数にびっくりしました。でもまだ断っていなかった三井物産の内定を断ったという誤報が報道された時は、三井物産の方に謝罪の電話を入れるなどかなり苦労しました。

それと街中で声をかけられる機会は増えましたね。それこそ全く知らないおっちゃんにも声をかけられますね(笑)。



吉田南構内野球部部屋



プロ野球の世界へ

—プロを意識し始めたのはいつですか？

3回生の11月ぐらいですかね。実際にプロ野球の球団のスカウトの方が僕を見に来るようになって、そのあたりから意識し始めました。

—最終的にプロを目指そうと決断したのはいつですか？

4回生の8月ですね。それまではずっと迷っていたんです。でも多くの方から話を聞くうちに、活躍できるという確証はなかったんですけど、プロに行きたいと思うようになりました。

—プロの印象は？

見えている世界はやっぱり華やかで、かっこいいとか夢を与えられるとか、そういう皆が憧れるような舞台だと昔から思っていました。でもその裏の見えない所で、どの選手も間違いなく努力してい

ます。だからそれだけ競争が激しくて大変な世界であるとも今は思っています。

—千葉ロッテマリーンズの印象は？

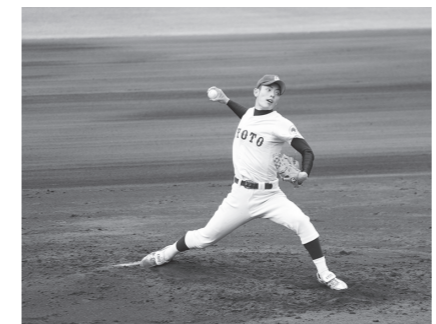
チーム全体としては、僕より少し年上の20代中盤から少し上ぐらいの若い選手が多いというイメージですね。歳が近いので話はしやすいはずですし、積極的に話しかけてそういう人からいろいろなことを学びたいと思っています。

—プロでの目標は？

今は課題がたくさんあるんです。まずは技術的な部分を改善して、1年目はできるだけ早くプロの空気になじんで、普段通りのプレーができるようなコンディションに持っていきたいですね。その中で1軍で投げることができたら本当に嬉しいですね。そして長いことプロで活躍できて、なおかつ多くの人に応援される選手になりたいと思っています。



「京大」という場所で



—京大生のイメージは？

世間一般の人が思っているようなぶつとんでる人は少ないですけど、やっぱり皆ちよいちよい癖がありますね。

—京大で気に入っていた場所は？

昔は附属図書館の2階のソファでよく寝てましたよ。あそこは気持ち良くて本当に良い場所ですね(笑)。

—大学で他にやりたかったことは？

焼き鳥屋でのバイト以外に、家庭教師とか他のバイトもやってみたかったですね。

他にもアメリカとかに留学で行ってみたいかったという気持ちもありますね。

—卒業前にやっておきたいことは？

京大で出会った多くの人ともう一回話をしたいというのはありますね。ちょっ

とだけ疎遠になっている人もいるので、そういう人とプロ野球のキャンプに行くまでにもう一回会いたいですね。

—京大はどんな場所であってほしいですか？

僕自身、京大のゆるくて自由な雰囲気はとても居心地が良かったので、そういう京大らしい良いところを残しつつ、時代の流れに合わせていってほしいですね。

—最後に京大生へメッセージをお願いします

僕も一人の京大生ですけど、そういう人が地道にがんばってプロの世界に挑戦して、どれだけ活躍できるかを見てもらえたらと思います。どんな結果になるかはわからないですけど、そういう姿を見て何か自分のことを少しでもがんばろうと思ってくれたら嬉しいですね。

ありがとうございました。プロでのご活躍を期待しています。

はみだし
すてーじ

初心にかえって、ポケットモンスター赤バージョンをはじめました。もちろん、白黒のゲームボーイ使ってます。

⇒わかります

(文・3 ミュウスリー)
(僕はワンダースワンを忘れられないです；編)

はみだし
すてーじ

ああ〜ディグダかわいいんじゃ〜
⇒ああ〜パタモンかわいいんじゃ〜

(工・3 きちよぎ)
(デジモンアドベンチャーの新作は4月です；編)